

114
A3422



貿易ノ盛衰ハ物産ノ興廢ニ因リ物産ノ興
 廢ハ貨幣流通ノ便否ニ由リ故ニ貨幣流
 通ノ道壅塞スルハ貿易物産兩ナカラ衰廢
 ス貿易物産衰廢スルハ民營産業ノ活路ヲ
 失ヒ破産流離ノ大患ニ臨ル可キハ是理
 勢ノ最著者易キモノニテ必智者ヲ鑒ミ而シテ
 知ラサルナリ是ニ因リ之ヲ視シテ貨幣ノ流通ハ
 百業ノ機軸トシテ盛衰興廢之ニ關係セリ
 ルヲナシ然レニ輓近海内ノ取情ヲ考メスルニ
 貨幣流通ノ道壅塞スル各地ノ物産割裂
 生産ノ資乏シク都倉ノ貿易モ亦萎靡振
 ハカレズ到レリ果シテ此幣ヲ生スル所以タルヤ

大正十一年四月



度沿革、然らざらん所ニシテ其原因言ハシ
シ後時封建、際ニ在リテハ租税ノ金穀概テ
該地ノ消費ニ係リ、且ハ循環後化ノ融通ヲ
為ス日ヨリ旧幕府及ニ諸藩ニ移テ、適宜ニ
貸附ナルモノヲ置キ貨幣ヲ貸与ニ或ハ之ヲ
変預スルノ方法ヲ設ケ以テ融通ノ便ヲ即ケ其
他諸部ノ名目ヲ以テ貨幣ヲ貸与スルモノニ
至テハ其枚数増スルニ違ハラス、其等ハ皆一時
姑息ノ措置ニ出ワルモノニシテ、其ノ風ニ和シ
テアリト雖モ、當時ノ諸氏儀ヲ以テ需用ヲ足シ
其生ヲおスルモノ蓋シ又斷ヤラス、然ルニ幸未
度薩摩縣ノ後、各縣ノ租税ハ東京方改メ
兩府ニ廻漕細入セシムルニ至リ、加之、至甲租税

石代金納ヲ許スノ令アリテヨリ、以テ一級租税
ノ便ヲ得ルト雖モ、其積年ノ久シキ國ノ貨幣
ヲ東京ノ一府ニ噓集シ、遂ニ他ノ地ニシテ衰
弊ノ域ニ進ミシムルノ弊收ヲ免セリ、而シテ其
政府ニ納ムル所ノ租税ヲ消費スルモノハ陸海
兩軍及ニ鐵道ノ電線、且臺等ノ資用最多
キニ居リ、其家分ハ之ヲ海外ニ輸出シ、其海内
ニ消費スルモノを以テ一般ノ潤澤ヲ為スニ足ラス
又海方交通ノ道閉ケシヨリ、後ニ其管業ノ方法
ニ至リ、自ラノ愛ニ旧慣ヲ去リ、新規ヲ抑キ、稍自
由ヲ得ルノ杖アルニ似タリト雖モ、其新法ナル
モノ未必ニモ善ナラス、其旧慣ナルモノ未必ニモ
不善ナラス、ノ事、竟得失相償フニ足ラス、蓋シテ

明治六年七年、向少豐担ナルを、アリ、三千余
あり、多額の積蓄に租税官納、為替の操
法に備へ、人民の預り金、各準備金、餘贏、用
て、後地物産の資本の貸与、或ハ蚕種生絲
米穀その他、高業の賛補に稍人民の信任
を得、各地、細民之ヲ頼り、其官業の遂げんを、
思キリ、以テ、廢藩後、後ト、銀貨貨幣、流通、一途
於テハ、宛モ、辛未以前、ノ景況ニ、依、仰、之、ん、を、有、り
然ルニ、密蔵同担、後、貨幣流通、ノ、加、息
為、法、漸、ニ、繁、カ、然、ル、街、衢、ニ、滿、ツ、ん、を、意、ニ、
致、ル、ノ、モ、ナ、ラ、ス、又、亦、京、府、一、二、ノ、豪、富、層、ヲ
濫、産、ス、可、キ、ノ、風、説、起、リ、世、ト、ノ、財、至、各、疑
懼、ノ、念、ヲ、懷、キ、一、時、ニ、其、財、ヲ、收、集、シ、テ、之、ヲ

死藏スルニ、ホ、サ、レ、之、ヲ、地、物、或、ハ、公、債、ヲ、換、レ、以、テ
利、自、ノ、損、害、ヲ、防、ク、ラ、保、ル、ル、ヲ、以、テ、相、商、多、ク、ハ
其、資本、ヲ、借、ル、ニ、由、ナ、ク、仮、令、之、ヲ、借、リ、得、ん、モ、其
利、子、四、割、ヲ、至、六、割、ニ、及、リ、故、ニ、高、工、ハ、日、々、遂、テ
衰、微、ニ、属、シ、竟、ニ、正、路、ノ、官、業、ヲ、轉、ニ、行、陰
僥、倖、ノ、空、業、ニ、耽、溺、シ、或、ハ、名、ヲ、取、引、ト、シ、契、約
ヲ、托、シ、隱、ニ、外、人、ヲ、資、金、ヲ、借、入、シ、遂、ニ、自、持、ス、ル、能
ハ、ス、レ、テ、破、産、流、離、ニ、陥、ル、徒、日、ニ、増、シ、自、己、加、ハ
ル、ヲ、以、テ、其、餘、勢、ノ、波及、ス、ル、ヤ、人、民、互、ニ、疑、
ヲ、生、シ、其、物、ヤ、信、ス、可、ラ、ス、其、言、ヤ、期、ス、可、カ、ラ、サ、
ル、ノ、狀、ニ、至、レ、リ、今、此、弊、ヲ、救、正、ス、ル、ノ、方、法、ヲ
設、ケ、ス、レ、ハ、竟、ニ、全、州、ノ、一、表、弊、ヲ、禦、ク、可、カ、ラ、サ、レ、
ノ、勢、ニ、至、ラ、レ、ト、ス、然、レ、テ、此、弊、ヲ、救、正、ス、ル、ノ、道、ハ

國家理財ノ法其宜ヲ得ルニ非カレハ以テ
金切ヲ奏スル能ハスト虽此日下諸事ノ日
事迄テ赴ク是下官等ノ點視ス可ヤカレ所
以テリ而テ此究通ノ際ニ會シ政府持テ法
利悔ノ事ヲ以テ俄ニ之ヲ挽回セシメルモ亦
難シ英國ヲ模スルニ政府公債ノ内ヲ以テ民業
資材ニ貸与スルノ法ヲ設ケ債ヲ預リ金ノ
規則ヲ定メ一時其壅塞ヲ疏通シ流融ノ一
路ヲ完守スルニ非カレハ豈ニ其成績ヲ見ルヲ得ヤ
然リト雖或ハ曰ハシ金貨ノ流通ハ自然ノ勢ニ
任セテ可ナリ政府ノ公債ハ之ヲ民ニ取リ去リ政
治之公費ニ供スル國ヲ強國ノ方要スルニテ他
貸与等ニ依用スルノ理ナシト又曰シ世間現

況アリ、後アリ人民之ニ債ヲ以テ融通、便ヲ
得ルニ是レ何リ別ニ貸附有ナンモ、
所ナキニ非スト虽此要スルニ通變ノ通
ラススレ、
民ノ信用ヲ得ルニ至ラス故ニ小費担
テ程ヲモ三并担ノ有解、
近キマアル可シトノ巷況、
銀切ノ事々十分世且、
徴候ト認メサルヲ得ルナリ、
私レハ現下金貨融通ノ一途ヲ確
テ安着シテ可ナリト云フ、
テ目下越眉ノ急ヲ救護ス可キノ知

ルヤリ然ラハ則政府ニ移テ後々ノ習慣法ニ基キ
人民ノ信係スル所ニ依テ適宜ニ金貨融通ノ
方法ヲ後ケ以テ各業ヲ補助如實成セサルヲ得
サルト又言ヲ待テサル可シ是レ貸借所ヲ設立
スル儀ノ由チ起ル所以ナリ然リト雖モ貸借
所ノ事務ヲ移テハ宜シク時宜ニ保ノ景況ニ依
以テ利子ノ高低ヲ為シ貸借預金ノ延分ヲ
施ス可キハ最緊要ノ件ニシテ注意ヲ加ヘリ
ル可カラス又日ラ進ヒ年ヲ二重ニ世上一般ニ
信付ルニシテ遂ニ貸借所ヲ廢絶スルニ至ラハ
是レ人民ノ浩劫ニシテ下ニ宿業ノ素志ヲ達スル
ノ秋ナリ抑モ之ハ大アリ勝テ豫急ナリテ亦
形勢ハ變ニ非常大患ノ仕ル所トスルカ又平

論モエテ、秋トスルカ若シ非常大患ノ仕ル所ト
シハ堂政府膠柱ノ理備ヲ固執シ之ヲ必執シテ
可ケラシヤ其乏ヲ福フノ策又非常ノ廟儀
ニ由ラサルヲ得シヤ但シ公金ヲ以テ民業ノ呼
コ貸与シ或ハ私者ノ金貨ヲ預リ以テ儲蓄
ナキヲ保ツト兩ナカク玉粒ノ変ニシテ客
者ニ可カラス其規程ヲ設ルヤ周密ナラカ
ルヲ得ズ其欺瞞ヲ禦クヤ嚴確ヲ要ス可シ
因テ其方法ノ要領ヲ概括シ之ヲ別冊ニ付
スト雖モ若シ制可ヲ受クルモ移テハ為實地
物本實柄個置セシカレト欲ス又別冊要領出
甲ヲ移テ若シ起初ニ貸借所ヲ東京ニ設
設セシトスルモ先ニ其近キニ移テ方法ニ適否

如何の字跡に異り他ノ地方ニ後見スニモト
相應シテ以テ其便宜ヲ助ケシメ係ラズ家産ヲ
シテ其所有権ヲ存托スルノ便宜ヲ得セシメント欲
スルノ至意ニ由ルナリ請フ之ヲ明_カニ示スルニ
謹テ採擇_シテ作ク

物産製造資本金所建設方法要綱

凡ソ資本金所ヲ設立スルノ主意ハ日々々々地方
金貨融通ノ道_ニ進_ミテ諸物製造人其資本金
ヲ得ルニ由テク其目的ヲ遂クル能ハサルノ狀ヲ
ルヲ以テ之ヲシテ其資本金ヲ得其業ヲ擴充セシ
メ以テ海内ノ物産ヲ蕃盛ナラシメント欲スルニ
在ルナリ而シテ其資本金所ハ内務大臣兩省
ノ協議ヲ以テ便宜ノ地ヲ選_ビテ之ヲ建設_スルニ
者ノ所管ト者ス可シ

資本金所ヲ建設ス可キ地方之事

一 資本金所ハ当分左ノ三ヶ所ト定ム可シ

東京
大阪

養 福島

但し前者の如く東京の貸付所より及び改設の所
法の順序規則の違否を察し駿と預け
借りあり情態の利害を察し積貯整頓通融
するに後手而して後手は改設福島の友
ち又可也

一右三ヶ所におのハ物産の盛衰を察し便否
ヲ計り其時宜く應じ一時出張所等々設置
スルべし可也

貸付金額等

一貸付所の貸付金額は六百萬圓に之り
三ヶ所の合計は下所或る多田あり可也
相預り金本條ノ類あり可也

一三ヶ所毎々其資金をラ一區分スルべし左ノ如シ

金貳百萬圓

一ヶ所ニテ所管ノ金額

内

金五拾萬圓

準備金

金百五拾萬圓

全ク貸付金

合如高

貸付所人負ノ事

一貸付所ハ其事務ヲ管理セシムル為メ一ヶ所毎々
左ノ人負ヲ要ス可也

内務省勸業寮九等ヨリ十一等迄ノ官員

一人

大藏省出納寮九等ヨリ十一等迄ノ官員

一人

内務省勸業寮十四等ヨリ十五等迄ノ官員

一人

大藏省出納事務官より十五等まで官負

貸附方

勘定方

帳面方

合九人

一人
二人
二人
一人

一内務大藏両省に於て委任官二名を撰挙し時々
三ヶ所を巡回検査せしむ可し

一勸業寮の官負ハ貸附方及ヒ取立等ノ事ヲ專
務トシ預り金ニ関スル事務ヲ兼任ス可シ出納
寮ノ官負ハ預り金請取及ヒ出納ノ事ヲ專
務トシ貸附方及ヒ取立ノ事務ヲ兼任ス可シ
而シテ二寮ノ官負各其責任ヲ負ヒ五ヶ協
議スルヲ要ス可シ

一右ニ官寮ヨリ出納スル所ノ九等ヨリ十一等迄ノ官負
ハ六ヶ月ヲ以テ交代ノ期トシ十四等ヨリ十五等ヨリ
ノ官負ハ十二ヶ月ヲ以テ交代トサシム可シ

但此交代期限ハ二寮ノ官負若其時ヲ異ニ
ス可シ

一貸附方ハ貸附ノ時ニ當リ抵当ノ物品ヲ評價シ
貸附ノ金額ヲ確定スルモノトシハ高業ニ熟練ノモ
ノニアラザレバ之ヲ擔任スル能ハス又勘定方ハ金
貨ノ出納ニ関係スルヲ以テ詐偽奸曲ヲ謀ルノ
恐レアリ故ニ彼令ハ一ヶ所毎ニ貸附方二人ノ内
一人ハ国立銀行ニ選舉ヲ命ジ一人ハ該地ノ地
方官ト協儀ノ上之ヲ命ジ勘定方モ亦同
様ノ方法ヲ以テ選舉ス可シ而シテ其上任ノ

并国立銀行ヨリ選舉シタルモノハ銀行ヲシテ
其者、身元ヲ保証セシメ地方官ト協議ト選舉
奉シタルモノハ該地、慥ナルモノ西人以上ラシテ其
身元ヲ保証セシメ又時宜ニ依リテハ身元保証
金ヲ預リ置ク可シ
一 帳面方ハ出張、官負該地、地方官ト協議
ノ上選舉奉ス可シ

貸附方ノ事

一 貸附方、多順ノ都テ資金ヲ借り受ケント欲
スル者ラシテ或人以上ノ保証人ヲ立テ其管轄
廳ノ事業ノ情実ヲ陳述シ請願セシムルヲ該
トス該廳ヲ移テハ其實際ヲ推察シ抵當品ノ

當否ヲ検査シお當ト思考スルハ借用ス
可キ金高弟ニ返溜ノ期限抵當品ノ價格等
ヲ詳記シ尚情細ナル事情ヲ添テ貸附所ニ
送致ス可シ

一 貸附金一口或千圓以下ハ前条地方長官ヨリ送
達スル實際所任官等ヲ以テ地方長官ノ意見
ニ應ジ貸附所主任ノ官負直之ヲ貸附ルヲ得ニ
一 貸附金一口或千圓以上五千圓以下ハ貸附所主
任ノ官負又ハ貸附方等其實地ニ派出シ地方
官ト協議ノ上營業ノ得失本人ノ身元性質及
抵當品等ヲ綿密ニ検査シ誠實ナルモノト認
時ハ直ニ貸附ノ多順ヲ為ス可シ

但シ抵當品貸附所ヨリ流出スル官負又ハ貸

地方等地方官より封印ラ為シ都テ地方官、
附托保復セシムルモノトス可シ

- 一 貸附金一五千元以上ハ貸附所ノ官負前条ノ手續ヲ以テ実地取調ノ上其意見書ヲ添テ勸業頭ニ通知シ勸業頭ノ差戻ラ得テ之ヲ貸附可シ
- 一 諸物製造人営業ノ担保ニ当リ擔當品無シトモ其儘ナル保証人アルモノハ貸附ル可シ但シ此場合ニ於テハ必ス貸附所官負実地ヲ調査シ地方官ニ協議ノ上更ニ區戸長等ニ命ジ別段ノ取締ヲ為サシムルコト又此場合ニ於テハ金高ノ多少ハ之ヲ把貸附所官負ヨリ勸業頭ニ通知シ勸業頭ノ差戻ラ得テ之ヲ貸附可シ
- 一 海外ノ物品ヲ買得ル資本ノ如キハ諸器械及ヒ

其ノ営業ニ必用ナル物品ヲ買得ス可キ目的ノ外之ヲ貸与ス可ラス

- 一 貸附金一五千元以下ハ貸与ノ首ハ其都度必ス借書類ノ寫ヲ以テ之ヲ勸業頭ニ通知ス可シ

- 一 貸附金ハ毎月五日迄ニ前月中貸附タル金高借主ノ姓名事業ノ目的返済ノ期限擔當ノ物品及枚数等ヲ詳記シ貸附所ノ資金及現場預リ金ノ総額ト比較計算シテ勸業頭ニ報告シ其寫ヲ出納頭ニ差出ス可シ

一 地券 擔當品ノ事
公債證書

右支時便七分ニテ見込貸附可也

一生絲 絹布等取小ニテ高價ノ品類

右六時便五分ヲ見込貸附可也

一木綿 綿等取大ニテ低價ノ品類

右支時便五分ヲ見込貸附可也

一換懐商取友ニ天然時日ヲ往ルニ隨ヒ減少スル

物品ノ抵当トシテ貸附可也

一抵当ノ物品貸附期限中時便ニ爲シテ右割

合算ノ不足スル時ハ抵当品ノ増額ヲ命ス可也

若シ其人其増額抵当品ヲ所持セサル時ハ貸附

金ノ内納ヲ命ス可也但シ増額ノ抵当品ヲ所持

ス又内納ノ金額ヲモ調査シ得サルモノアル時ハ

保証人ヨリ其増額ノ抵当品ヲ出サシムル歟又ハ内納ノ

金額ヲ辨償セシム可也

預リ金ノ事

一貸附所ニ於テハ業者士族平民ノ差別アリテ般ノ預ケ

金ヲ引受テ可也但其金高ハ五千圓以上ニシテ

其期月ハ六ヶ月以外ナル可也

但シ預ケ金ハ其管轄廳ヲ經スニテ本人ヨリ直ニ

其旨ヲ貸附所ニ申出可也

一預ケ金ハ必其期月ヲ定メ置其期限内ニテ之ヲ引

出スル許サス又期限満テ後之ヲ引出サシムル其期

限後ノ利息ハ渡サシムル法トス然レトモ満期ニ

到リ更ニ預ケ金ノ子種ヲ蓄スモノハ素ヨリ其

限ニ在ラストス

但預け主金子大用アル時ハ其預け証書ヲ
當トシテ借り受クルヲ請求スルニ於テハ貸付
所ノ都合ヲ高リ之ヲ貸与ス可シ

一預り金ノ利息ハ満期ノ元金ト共之ヲ返
可シ但元金半々年ハ上置居ル分ハ毎年六月
十二月ノ兩度ニ拂返ス可シ

一預り金ハ其品種ニ抱ハラス満期ノ時ハ總テ在倉
金ヲ以テ渡ス可シ

一預り金ハ出入ノ期ヲ高リ之ヲ貸付所ノ資金
保入レ他ノ資本ニ貸与スルヲ法トス

但三ヶ所ノ預り金高ハ各貸付所ニ於テ半々
月毎ニ五ニ通知シ後地貸付ノ景況ヲ高リ
五ニ流過ス可キモノトス

一預り金ハ毎月五ヶ月前月中ノ預り金高預け主ノ
姓名及ヒ出入ノ金額等ヲ詳記シ貸付所ノ資金ヲ
保ヒ貸付金ノ総額ト比較計算シテ出納頭
報告シ其眞ヲ勸業頭ニ差出ス可シ

一預り金ハ内務大藏兩省ノ擔保スル處ナレハ別ニ
擔當品ヲ出サレ可シ

貸付金并預り金利息ノ事

一貸付金ノ利息ハ一ヶ年一割即百分ノ十ヨリ少ナカ
ラサル可シ

一預り金ノ利息ハ一ヶ年八分即百分ノ八ヨリ少カラサ
ル可シ

但當分預り金ハ年七分七十分貸付金ハ年一割

ラ以テ内規トシ其業ヲ試ム可シ

貸附金期限ノ事

一何レノ場合トモモ十二ヶ月以外ノ期限ヲ以テ會
子貸附ヲ為ス可ラス但十二ヶ月間ヲ控テ成果
ヲ期シ難キ製造品ノ資本等ニテ勸業頭ノ指
令ヲ受ケ貸附クルモノハ例外トス

貸附金返却ノ事

一貸附金返却ノ期有テ到リ元利全納スルニ依リ
レハ担保ノ物品ヲ渡サレ可シ
一返納遲滞スルモノアル時ク担保ノ物品ヲ公平
ノ入札ヲ以テ賣却シ貸附ノ元利ヲ引去リ返却

スルハ当人ト返却ス可シ若シ担保ノ物品價直
下落シ賣却ノ代金貸附ノ元利ヲ償フ能ハサル
時ハ其不足額ヲ当人或ハ保人ヨリ辨納セ
シムコト但担保品ナキ貸附ノ返金遲滞スル
時ハ当人或ハ保人ノ家産ヲ押ク賣却ノ上
弁納セシムコト

右荷為替金ノ事

一後地ノ物産金貨融通ノ不價ヨリ販賣スル
能ハサルカ或ハ該地物産ノ價直低トシテ他
方ニ販賣セント欲スルモノハ荷為替ノ方法
ヲ以テ物品ノ時價六分ニテラ貸後ス可シ
一右荷為替送リ先ハ右ノ場所ニ限ル可シ

東京
神戶
赤馬関

京都
長崎

大阪
新潟

横濱
箱館